

## 被災地から7 井戸の清掃でコミュニティの絆を強める

CWSが被災地の緊急・復興支援活動が続けるスンガイ・リマウ地域とパダン・パリアマン地域のある村にパックさんという57歳の男性が暮らしています。パックさんが暮らす村はドゥリアン・ダウン村で、村のモスクの前にある井戸から水をひくためにCWSの活動に積極的にお手伝いいただいています。CWSのスタッフらは、パックさんにどのように井戸をきれいにするか、そして水道管をひくかをまず伝えました。パックさんはすぐに理解して、手際よく作業をすすめてくれました。

「今日、皆で5つの井戸をきれいにしたよ」とパックさんは嬉しそうに話してくれました。パックさんと同じ村の男性達は、村の井戸を自分達で使えるようにしたことが誇らしげです。井戸の清掃作業はなかなか大変な作業です。泥が混ざった井戸水がきれいに澄んで、水が臭わなくなるまで何度も同じ作業を繰り返します。

「もともと家の井戸はとても澄んだきれいな水があったんだ。ろ過する必要などなかったよ。しかし、地震の後は、水に泥が混ざって嫌な臭いがするようになった。井戸が使えなくなって、飲み水にも洗濯も料理も困ってしまい、近くの川まで水を汲みにいかなければならなかったよ」パックさんと村の男性達は震災直後の様子を語ってくれました。パックさんの家の井戸は2度大掛かりな清掃作業をして、ようやく洗濯などには使えるようになり、飲料水はCWSが供給した簡易タンクからの水を利用しています。パックさんは、井戸の清掃作業をこれからも続けて、飲み水にも使えていた元の状態に戻したいと思っています。CWSはパックさん達が暮らす地域でさらに40の井戸をきれいにするために、ポンプなど必要な支援物資とともに技術指導に励んでいます。

「今、この村には2つのポンプがあるので、あと1週間で村の全部の井戸をきれいにできるよ」とパックさんは言います。被災地においては、生活改善に直結する様々な活動に被災者自らが参画することによって、コミュニティの絆が強まり、被災者達の自尊心や希望を持つことにつながります。パックさん達は、地震によって引き起こされる様々な問題のうちひしがれていません。被災するまでは、農民として働いていたパックさん達にとっては、井戸の清掃活動によって少しでも収入を得ることができたのも幸いでした。

地震発生から3週間が経った時点で、CWSはスンガイ・リマウ地域の73の井戸の清掃を終えました。そのことによって、455人の被災者が安全な井戸からの水にアクセスすることができました。

(2009.10.23)



CWS スタッフとともに自分達の村の井戸を清掃する被災者達

**ご寄付の方法：**

**【郵便局（ゆうちょ銀行）から】**

**郵便振替口座番号：00930-1-119782**

**加入者名：特定非営利活動法人アジアボランティアセンター**

\*通信欄に「インドネシア復興支援」とご明記ください

\*領収証ご希望の場合はその旨もご明記ください

**【銀行口座に】**

**銀行名：三菱東京 UFJ 銀行阪急梅田北支店**

**口座番号：5371964**

**名義：特定非営利活動法人アジアボランティアセンター**

\*銀行振込の場合「09IN」とご指定ください

\*領収証ご希望の場合は別途 AVC 宛 TEL（06-6376-3545）で

振込内容（振込日、お名前、ご住所、TEL）ご連絡ください